



崎山直夫：水族館の水生植物展示 —新江ノ島水族館の場合—

旧江の島水族館に「緑のオアシス」という淡水の水草類をふんだんに使った水槽があった。今で言う“癒しの効果”のようなものがあつたのか、非常に人気のある水槽であつた。このような水草類は種類にもよるが比較的簡単に育成可能で一般家庭でも十分楽しめる。今でも水草類は多くの水族館で展示されており、いくつかの水族館で家庭では扱えない大きな水槽を使って展示し人気を集めている。しかし、海にある海藻・海草をふんだんに扱っている水族館となるとそう多くはない。答えは簡単である。維持・育成が難しいため、扱うことに消極的なのである。

しかし、アメリカのモンレー・ベイ水族館での大型の海藻ジャイアントケルプを扱った展示をきっかけに、海藻や海草などを積極的に扱う水族館が増えてきた(荻野 2006)。これは海藻類を扱うにあつての育成技術・水槽設備が向上してきたことはもちろん、水槽のつくりこみにおいて生態的、環境再現型の展示が主流になってきていることも後押ししていると思われる。展示構想や計画の時点で、水槽にはお客様の目を引く魚類のほかに、岩組みやサンゴ、附着生物、水生植物など、主となる展示生物が生息する場所に存在する様々なものが配置されているのである。ただし、海藻などの育成技術が発達するのと共に「つくり物」の製作技術も進歩しているため、それらが施工のときに本物になるか偽物になるかは別問題である。新江ノ島水族館では水槽により「本物」と「つくり物」を使い分けて展示している。前者の展示を2つ紹介する。

海中の森(岩礁)水槽: 江の島の南磯にも広がるアラメやカジメといった大型の海藻類の藻場を表現した展示(図1)。海藻育成には「光」、「水の動き」、「栄養」といった要素が重要であると考えられている(荒井 2002)。建設にあたり、資料収集や予備実験、他園館視察などを行い備えた。水槽上部にはいくつかのタイプの照明が並び、背後にはピストン式の造波装置を目にすることができ、擬岩面には何らかの形で外から持ち込まれたいくつかの海藻類が自生してきた。立ち上げ当初と比較するとうっそうとした雰囲気が出てきたものの、主役としたいアラメやカジメの周年育成に



図2 アマモ水槽

は至らず、いまだ課題が残る発展途上の水槽である。

アマモ水槽: 三浦半島沿岸に見られるアマモ場を表現した展示である(図2)。本展示についても資料収集や育成実験を重ね、同時にアマモ場再生技術の研究を行っていた鹿島技術研究所葉山水域環境実験場や北里大学水産学部の協力も得て備えた(山木ら 2004)。展示水槽には種子から育てたアマモ苗を中心に移植した。移植以来、本水槽のアマモは栄枯盛衰を繰り返している。自然界もそんなものだが、あまりに悲惨な状況は展示としては成り立たない。しかし、アマモの場合、周年育成はクリアしており、今はその質を求める段階で海藻より一歩二歩進んでいる。アマモの間に見え隠れする生き物たちは非常に落ち着いており、アマモの存在がガラスに働いていることがうかがえる。

海中の森の再現にはまだ及ばない。先にあげた3つの要素などこれからも研究を重ね、他機関との情報交換も行い、少しずつでも前進する展示をめざしたい。

荒井 寛 2002. とうとう海藻が茂った—大型海藻の育成と展示。どうぶつと動物園 4: 4-9. 東京動物園協会, 東京.

荻野洗太郎 2006. 水生植物の展示. 新飼育ハンドブック, 水族館編 4, 展示・教育・研究・広報: 64-65. 日本動物園水族館協会, 東京.

山木克則・小中久朗・難波信由・林 文慶・越川義功・田中昌宏 2004. アマモ場造成に向けた新しい種苗生産技術. 月間海洋 36 (11): 846-850.

(新江ノ島水族館)

【新江ノ島水族館】

所在地: 〒251-0035 神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-19-1, TEL: 0466-29-9960, HP: <http://www.enosui.com>, 携帯サイト: <http://bemss.jp/enosui>, 交通: 小田急江ノ島線「片瀬江ノ島駅」より徒歩3分・東名高速「厚木IC」より約24 km, 営業時間: 3月~11月 9:00~17:00, 12月~2月 10:00~17:00 (最終入場は閉館時間の1時間前まで/年末年始, GW, 夏休みは拡大営業有り), 年中無休(施設点検等臨時休館有り), 入場料: 中学生以上 2,000円, 小学生 1,000円, 幼児(3歳以上) 600円, 20名以上の団体は1割引, 有料入場者で障害者手帳をご提示の方と同伴者1名は半額, 2回分の入場料金で1年間何度でもご利用頂ける年間パスポート有り。



図1 海中の森(岩礁)水槽